

大山の草庵跡

関東における親鸞聖人の草庵跡として、小島・稲田・山谷・大山の4カ所が伝えられている。「大山」とは桂村阿波山付近であることは分かっていたが、現在、真宗寺院はなく、この地での人々の記憶はすでに消えていた。

かつて、当時東京教区駐在

教導であった佐々木正氏（現在長野五組万福寺住職）が親鸞聖人の原像を求めて茨城の地を歩いた。場所が特定できない草庵跡を求め、地元桂村「史談会」（歴史研究会）の方々と、その研究と記念碑建立をされたのが「大山草庵跡」の碑である。

那珂川の辺、常陸の嵐山と称されるこの地は、奥郡の交通の要所でもある。海の民・川の民・山の民と接し、奥郡各地（小瀬、東野、八田、大門等）



大山の草庵跡（新）

の拠点を結ぶ線上に当たる。船に乗り奥州へも足を伸ばされたであろう、その姿を思うとき、関東晩年における聖人と、その背景に群萌として生きる人々の姿が生き生きと浮かび上がってくる。

城里町（旧桂村）の国道123号線沿い、桂中学校正門前阿波山神社入り口に「大山草庵跡」の碑は静かに建っている。